聖パウロ学園同窓會會報

第10号

平成13年3月24日発行

発行者

聖パウロ学園内
同窓会事務局

〒525-0055
草津市野路町178
☎077-564-5600
FAX077-564-5136

同窓生が誇れる学校になりつつある光泉

理事長　山田　右

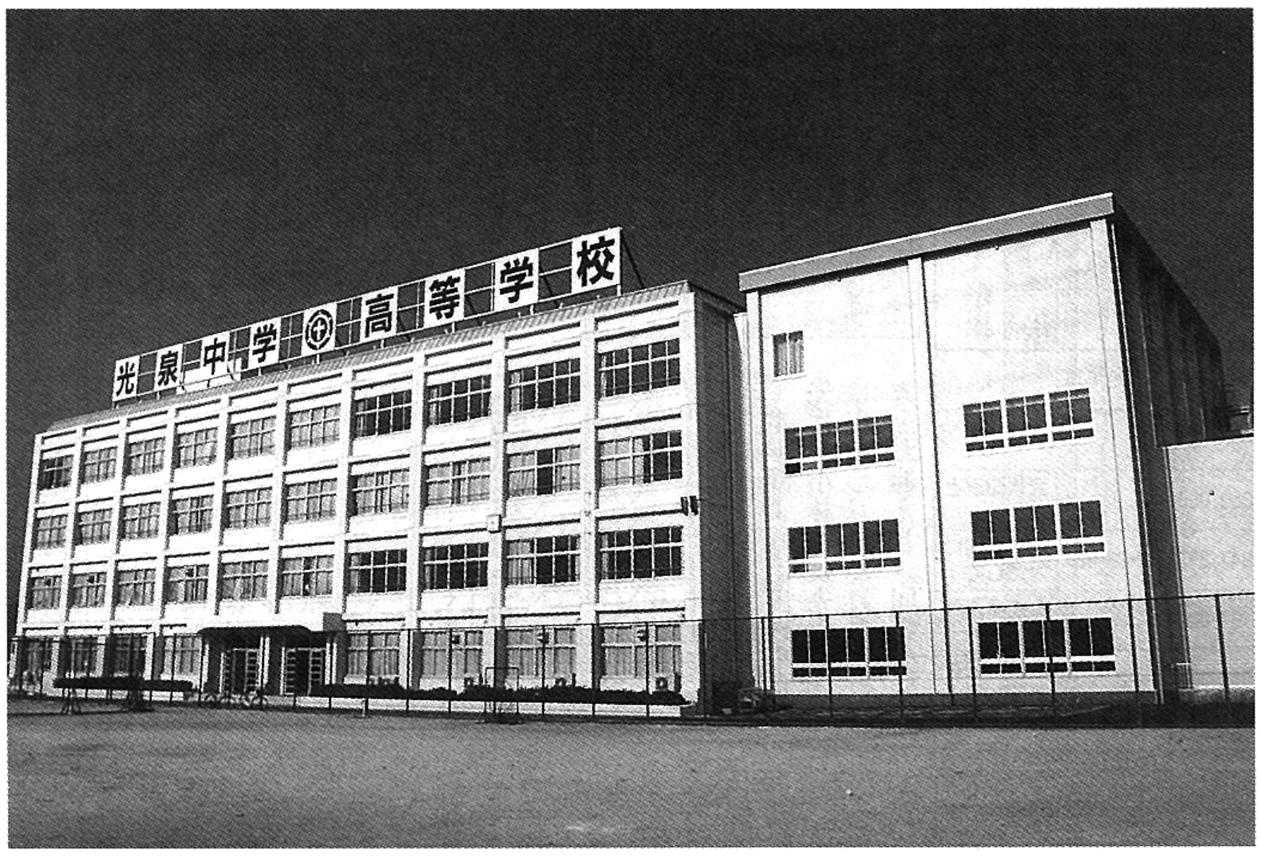
光泉を御卒業になり実社会で御活躍中の同窓生の皆様方の上に神様の祝詞をお祈り申し上げます。光泉は今年(平成十三年)三月末を以ちまして満十三年を迎えました。十年一昔といわれる十年に、もう三年もプラスする時間が経過いたしまして、その存在、教育レベル、進学実績、設備、野球、バスケット、バレー等々社会に認められる学校になって参りました。過日開校当初の写真を見ておりましたら、教師も半分以上がお代わりになり、若いやる気満々の先生方も増えて教師陣も充実してきた実感を覚える光泉であります。卒業生の皆様方にとりましては、自分の母校が立派に社会評価されるに応じて、同窓生の皆様方の社会的評価も向上して行きますので、光泉の発展を喜び、応援して下さい。

光泉は平成十一年度に校舎の増築工事を行いまして(十二年四月完了)、大変立派な設備になりました。運動場側にありました生物、化学、物理等の理科室を増築部分の裏側に移しましたのでその場所に大変明るい六教室が増えました。そして旧校舎に接続して研修棟を増築致しました。この研修棟は一階が半地下で規格に適合したすばらしい武道場、二階が以前三階にあった図書室の四倍位の広さの図書室兼自習室及び五つの小教室等です。そして三階は約三百八十席のチャペル、四階も約三百八十席の階段教室です。これら三階、四階の大教室をスクールアワー「心の教育の場」と致します。同窓生の皆様方からも増築の寄付をいただきありがとうございました。まだの方は母校発展のために工事の寄付を今からでもよろしいのでお送り下さい。ありがとうございます。

光泉高校の入学定員は一学年二百名五クラスしかありません。二千余名が志願するにしては定員が少なすぎますので、これを二百八十名七クラスに増員していただくように県にお願いしております。文部省の考えによりますと一つの高校は八クラス三百二十名が標準サイズと言われております。その位のサイズの学校になり、理数、特進、普通の三種で教育の展開が出来ればと願う次第です。今回の増築で、それを充分可能にする設備が出来たのです。応援して下さい。

三階の礼拝堂(チャペル)は補助椅子を入れると約四百人入れますので、来年からは卒業生の成人式とか結婚式等を挙式して同窓生の幸せをお祈りする儀式をしたく考えております。そうしますと応しい結婚相手を選ぶ「光泉カナの会」を組織して欲しいとの声もあります。このように光泉卒業生が光泉を中心に幸せへと発展して行って欲しいものです。同窓生の皆様方がもっともっと気軽に学校に来ていただけるような行事、その一つが十一月初めのOPEN CAMPUSですが、成人式、結婚式、「光泉カナの会」等々の場を設立したく考えておりますので、どうぞ盛り上げて下さい。

友人と共に光泉に遊びに来て下さい。我が母校光泉を滋賀県一の学校に育てて下さい。中学に入学する志願者を紹介して下さい。高校受験生を一人でも多く入学出来るように御協力お願いします。我が母校光泉は心のより所となりますように。お元気で。



校舎北側に増築された新校舎(第一駐車場跡)

二十一世紀を迎えて

学校長　小林冨三

いよいよ二十一世紀の幕開けである。二〇〇一年(平成十三年)新しい世紀への期待は大きい。そして反面不安も多い。皆さんはこの世紀を背負って立つ人材である。どんな難局にあおうともそれを克服して前進してほしいものである。

前世紀で実現出来なかったもの、それは「平和」の実現にある。せめて二十一世紀は「戦争」のない世紀になってほしいと強く思うものである。

今日、地球は狭くなった。丸く又小さくなった。地球的規模で考えねばならぬことも実に多くなった、又可能になっている。もはや国家間の利害で争う、しかも武力でもって解決する時代ではなく、逆に地球そのものが見えない敵によって侵され人類を破滅に追い込むことになろう危険さえある。

今世紀の怪物とは何だろうか。一つはエレクトロニクス(コンピューター)と今一つは遺伝子工学(バイオ)であろう。この二つが結びあって二十一世紀の怪物「未来人間」をつくり出すのではないか。そしてこの「未来人間」が逆に人類の生命そのものを奪い去るのではないかとさえ不安になる。

もともと「科学」は人間の知的な活動の一つであり、技術化されることによって人間の能力や行動を拡大し増幅してきたのである。「科学」は主体である人間の意志に応じて目的のために役立てられるのである。つまり「科学」は無色、中立であり、平和のためにも、戦争のためにも、未来人間のためにも役立つのである。今だかつて「戦争」のない世紀はなかったのだ。だからこそ「平和」の実現のために人類の「平和」への強い意志が肝要なのである。

古来、人類の先輩は「平和」を深く求めてきた。聖徳太子は「以和為貴」と述べて「和」こそ平和の基本であると述べている。イエス・キリストは「山上の垂訓」の中で、「平和を実現する人は幸いである。神の子と呼ばれる」と述べている。ドイツの哲人カントは「永遠の平和は決して空虚な理念ではなく課題なのだ」と語る。いずれも「平和」を希求しその実現を願ったものである。ハイデッガーは遺書の中で「神の再臨がないかぎり、この人類は破滅をまぬがれない」と絶望的に呼んでいる。

パウロはコリント人への手紙の中で「わたしたちは四方から苦しめられても行き詰らず。途方に暮れても失望せず。虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない」と強く神への愛を主張し「目に見えないものを望んでいるなら、忍耐して待ち望む」という。「平和」への希求も又その一つではないだろうか。希求があればこそ耐え忍ぶのである。

そのためには「己の欲せざるところを人に施すなかれ」という消極的な生き方ではなく、それを乗りこえて「人からして欲しいと思うことをその通りにしなさい」という前向きの積極的な生き方こそ、今世紀の人間に求められるのではなかろうか。

「平和」の実現は人類の多年にわたる希求であり、念願であった。その実現こそ、この世紀でなさねばならぬことであり、世紀をこえた人類の魂の叫びではないだろうか。

皆さんへの期待するところ大である。

悔いのない学生生活を

同窓会会長　十期生　山中亜沙美

本年は、同窓会会長という大役をいただき初めて同窓会総会にも出席させていただき、大変貴重な経験をさせていただきました。全てのことが初めての経験という中、先生方に手助けをしてもらい、無事同窓会総会をとり行うことができました。また昨年は校舎の増築ということで記念礼拝に参加させていただきました。新校舎増築により、光泉中学・高等学校は新たな一歩を踏み出したことでしょう。光泉の生徒は、このような整った施設の中で学校生活を送ることができ、大変恵まれています。この施設を余すことなく利用し、勉学に励まれることを祈っています。またこのような施設の充実の中で勉学に励むことはもちろんですが、高校生活というのは長いようで、過ぎてみるとても短いもので、アッという間に時はたってしまいます。その中で、あの時こうしていれば…ということのないように、今自身がしたいこと、しなければならないことを十分にすることが大切です。

高校というのは、自分を試す為や、何事にも挑戦することができる貴重な時間であると思います。例えば部活動に励むことです。自分の好きなことに打ち込めると同時に、上下関係について学ぶことができ、社会に出た時の役に立つことになります。また勉強ともしっかり両立させ、成果をあげることにより自分自身の自信にもつながります。

また私が言いたいことは、勉強というものには個人差があるのであせらずに自分のペースでがんばることです。それに伴い先生方も、集団行動は重要な事ですが、個人個人に目を向けて、個性を尊重しながら、生徒一人一人を伸ばしていくことに力を入れていただきたいと思います。

(京都産業大)